

CASBEE京都-新築(2015年版)
(仮称)藤本町共同住宅 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1.2 遮音										
開口部遮音性能: T2										
1	開口部遮音性能				5.0	1.00	5.0	0.30		
2	界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音										
					3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温				3.0	0.63	3.0	0.63		
2	外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38		
3	ゾーン別制御性				3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御										
					1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式										
					3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1	屋光率	●自然	A(全国版準用)	部屋に対して大きく開口を取っている	1.8	0.30	4.0	0.30		
2	方位別開口				1.0	0.60	5.0	0.50		
3	屋光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策										
1	屋光制御	●自然	B(推奨内容)	住居部カーテンレールの設置・庇	2.0	0.30	4.0	0.30		
3.3 照度										
					3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御										
					3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質			F☆☆☆☆の建材の使用	4.0	0.60	4.0	0.63		
2	アスベスト対策				4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気										
1	換気量				2.0	0.40	3.0	0.38		
2	自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		1.0	0.50	3.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視				3.0	-	-	-		
2	喫煙の制御				3.0	-	-	-		
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性			各住戸で100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能予定	3.0	0.40	4.0	0.60		
2	高度情報通信設備対応				3.0	-	4.0	1.00		
3	バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観	●とも	C(独自加点)		1.0	0.30	2.0	0.40		
2	リフレッシュスペース				3.0	-	3.0	0.50		
3	内装計画	●自然	D(独自基準)		3.0	-	-	-		
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計				2.5	0.30	-	-		
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
3	衛生管理業務				2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性				3.0	0.50	-	-		
2	免震・制振性能				3.0	0.80	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										
		●大切	A(全国版準用)	劣化対策等級2を取得予定	3.9	0.30	-	-		
1	躯体材料の耐用年数			磁器質タイル貼	4.0	0.20	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			内壁・天井にビニルクロスを使用	5.0	0.20	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				4.0	0.10	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性					2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.7	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり					-	-	2.4	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観地区にあり認定書を取得予定	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 1.11	3.4	0.50	-	-	3.4
				集合住宅以外の評価(3a.3b)	1.0	-	-	-	
				集合住宅の評価(3c)	3.4	1.00	-	-	
				太陽光パネルの設置	3.0	0.20	-	-	3.0
4 効率的運用					-	-	-	-	
				集合住宅以外の評価	3.0	-	-	-	
				4.1 モニタリング	3.0	-	-	-	
				4.2 運用管理体制	3.0	-	-	-	
				集合住宅の評価	3.0	1.00	-	-	
				4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
				4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマに加えて、節水型便器を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.70	-	-	
					2.0	0.33	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮					3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
				自転車・駐車場・管理用駐車場の確保	4.0	0.25	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
					3.0	0.70	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
				屋外広告物を設置しない	4.0	0.70	-	-	
		●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる